

日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人 金沢市観光協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 金沢市	
所在地	石川県金沢市	
設立時期	平成 26 年 5 月 26 日	
職員数	7 人	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 理事長 中島 秀雄 （出身組織名） 金沢商工会議所副会頭	（一社）金沢市観光協会理事長のほか、金沢商工会議所副会頭、（公財）金沢コンベンションビューロー理事長、北陸・飛騨・信州 3 つ星街道誘客協議会会長等を務め、広く各種関係団体の取りまとめ役を担っている。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材）	（氏名） 副理事長（兼）専務理事（兼）事務局長 八田 誠「専従」	金沢市都市政策局企画調整課長、経済局長等を歴任し、地域マーケティングやマネジメントについて豊富な知識経験と高い能力を持つ。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材）	（氏名） 米田 泰弘 （出身組織名） （株）JTB中部	旅行会社に長年勤務した経験を有し、自治体での地域活性化プロデューサーとしての勤務経験もあり、地域の魅力ある素材を活かしたプロモーションに高い能力を持つ。
各部門（例：旅行商品の造成・販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 田代 真佐子「専従」	長年に渡り、金沢市旅館ホテル協同組合に勤務し、海外向けコンテンツや夜のアクティビティの制作に携わり、金沢の強みである食や文化の旅行商品をまとめ上げる高い能力を有する。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	金沢市観光政策課（ブランディング、マーケティング、海外プロモーション、国内プロモーション、旅行商品造成 <u>促進</u> ） 金沢市企画調整課（重要施策の企画・調整） 金沢市文化政策課（文化・芸術の振興） 金沢市文化施設課（文化施設の管理運営）	

	<p>金沢市歴史都市推進課（金澤町家の活用、重伝建地区の保存活用） 金沢市景観政策課（案内看板の整備、観光地修景） 金沢市都市計画課（地域まちづくり協定、高さ規制、容積率） <u>金沢市オリンピック関連事業推進室（金沢文化スポーツコミッションの運営）</u> 金沢市スポーツ振興課、金沢マラソン推進課（スポーツツーリズム） <u>金沢市産業政策課（食文化の振興、クリエイティブ人材育成）</u> 金沢市<u>商工業商業振興課（商店街連携、食文化の振興）</u> <u>金沢市ものづくり産業支援課（商品造成、クリエイティブ人材育成）</u> 金沢市クラフト政策推進課（クラフトツーリズム） 金沢市農業水産振興課（加賀野菜、水産物の振興） 金沢市広報広聴課（シティプロモーション） 金沢市情報政策課（公衆W i - F i 整備） 金沢市国際交流課（交流都市との連携） 金沢市交通政策課（地域公共交通） 金沢市歩ける環境推進課（レンタサイクル「まちなり」運営） 金沢市保健所衛生指導課（宿泊施設、民泊対応） 金沢市環境政策課（グリーン・エコツーリズム） 金沢市道路管理課（道路環境整備） 金沢市危機管理課（災害時における観光客の避難対策） 石川県観光企画課（観光施策全般） 石川県誘客戦略課（首都圏等を中心とした国内誘客） 石川県国際観光課（海外誘客）</p>
連携する事業者名及び役割	<p>金沢商工会議所（商環境改善） 金沢市商店街連盟（商環境改善） 金沢市工芸協会（着地型旅行商品、物産開発） （一社）金沢クラフトビジネス創造機構（着地型旅行商品、物産開発） （一社）石川県物産協会（着地型旅行商品、物産開発） （公財）金沢芸術創造財団（文化施設の管理、文化・芸術プログラム） （公財）金沢文化振興財団（文化施設の管理、文化・芸術プログラム） 金沢市料理業組合（着地型旅行商品、食文化の発信） 石川県社交料飲生活衛生同業組合（着地型旅行商品） 金沢ホテル懇話会（宿泊施設環境改善） 金沢市旅館ホテル協同組合（宿泊施設環境改善） 湯涌温泉観光協会（宿泊施設環境改善） 深谷温泉観光協会（宿泊施設環境改善） （公財）金沢コンベンションビューロー（M I C E 誘致） （公社）石川県バス協会（2次交通の充実） （一社）石川県タクシー協会（2次交通の充実） 西日本旅客鉄道（株）金沢支社（関西圏誘客、1次交通の充実）</p>

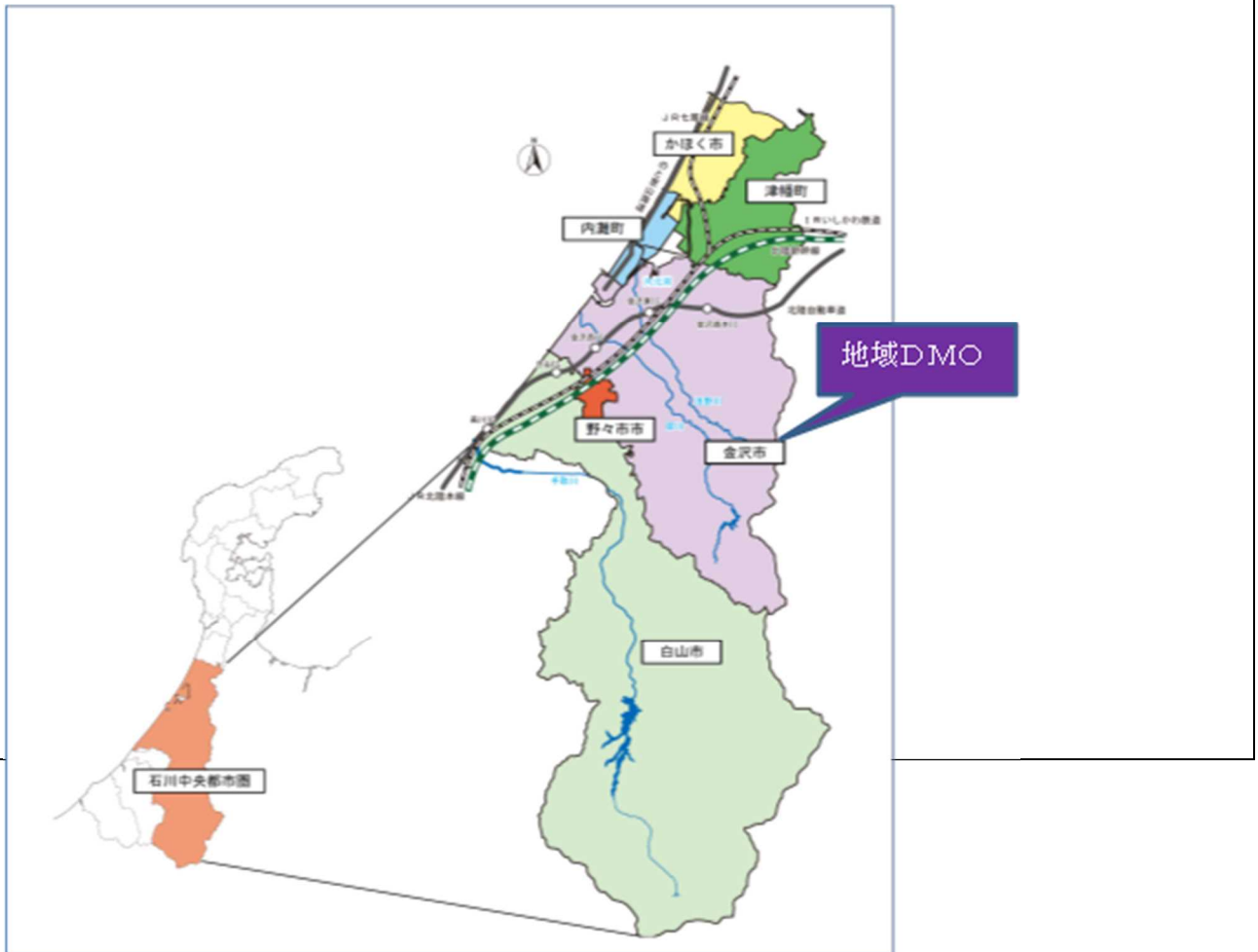
	<p>東日本旅客鉄道(株)北陸営業センター(首都圏誘客、1次交通の充実) 日本航空(株)北陸支店(小松空港を活用した誘客) 全日本空輸(株)金沢支店(小松空港を活用した誘客) JATA中部支部石川地区委員会(旅行商品販売) (公社)石川県観光連盟(広域観光) (協)兼六園観光協会(着地型旅行商品)</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件) 要領Ⅱ3(1)の①②に該当</p> <p>(概要)</p> <p>① 幅広い分野の関係団体の代表者等25名が理事として理事会に参画し、意思決定を行っている。</p> <p>② 行政や協会会員の中心メンバーの実務者等によるコアメンバー会議を月1回程度開催し、DMOとしての取組の方向性や具体的な方策等についての検討や情報の共有化を行っている。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>本協会事務局内に観光ボランティアガイド「まいどさん」の事務局を有し、(公社)金沢ボランティア大学校における観光コースへの講師派遣、卒業生の「まいどさん」への受入、自主研修などの各種活動に支援・協力している。</p> <p><u>また、市民向けに外国人旅行者への対応に関するセミナーを開催するなど、地域一丸となったおもてなしの機運醸成に取り組んでいる。</u></p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>○海外誘客推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧州の現地旅行会社や誘客コーディネーターと連携した現地プロモーション ・<u>欧州向け映像コンテンツによるオンラインプロモーション</u> ・海外の旅行会社、メディア、ブロガー等を招請したファムトリップ ・台湾での現地プロモーション、その他各種交流・誘客事業 ・観光情報ウェブサイトHP (<u>海外8日本語・外国語(8言語)</u>)の管理運営 <p>○国内誘客推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRや旅行会社、周辺都市等と連携した、三大都市圏及び東北地方向けの誘客キャンペーン ・有力メディアを活用した情報発信 ・モニターツアーの実施 ・旅行博への出展 ・<u>観光情報ウェブサイト(日本語)の管理運営</u> <p>○旅行商品企画発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間主導による体験プラン、現地ツアー、イベント等の「コト」商品の

<p>の着地型旅行商品</p> <p>開発促進及び情報発信 ウェブサイトHP の構築・管理運営</p> <ul style="list-style-type: none">・ 食事・体験クーポンの企画・販売・ 伝統芸能の体験プログラムの企画・販売・ 富裕層向けプレミアムツアーのコーディネート・ 各種地域資源を活用したモデルコースの企画・発信 <p>○ 広域観光連携推進事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 観光連携協定締結都市と連携した周遊ツアーの企画・ 交流都市協定締結都市の各種イベントにおける観光PR <p>○ 受入環境整備事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 観光ボランティアガイド「まいどさん」による観光案内・ 市内各種通訳ガイドの検索サイトの管理運営・ 観光関連事業者等の英語対応力向上（教材の作成、翻訳アプリの機能向上事業への協力など） <p>— 飲食店ガイドマップの発行</p> <p>○ 観光人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 観光ボランティアガイド「まいどさん」の管理運営・ 通訳ガイド人材のスキルアップ研修 <p>○ 観光事業促進事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 市内大学生等、若い世代への本市伝統文化の理解促進 <p>○ 観光振興促進活動</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本協会会員等の意見交換会、セミナー等の開催・ 観光関係団体との連携・支援・ 各種観光事業の後援・ 観光関連推進委員会等への参画 <p>(定量的な評価)</p> <table><tr><td></td><td style="text-align: center;"><u>—2016H27年</u></td><td style="text-align: center;"><u>20</u></td></tr><tr><td></td><td></td><td style="text-align: center;"><u>18—H28年</u></td></tr><tr><td>・ 金沢地域の年間入り込み客数</td><td>1,006万人</td><td>→ <u>1,022</u>1,034万人</td></tr><tr><td>・ 金沢市の年間延べ宿泊客数</td><td>296.6万人</td><td>→ <u>319.4</u>308.5万人</td></tr><tr><td>・ 金沢市の年間外国人延べ宿泊客数</td><td>25.6万人</td><td>→ <u>44.8</u>39.6万人</td></tr><tr><td>・ 金沢旅行全般の満足度（とても満足）</td><td>38.4%</td><td>→ <u>46.9</u>44.5%</td></tr><tr><td>・ 金沢への再来訪回数（リピート率）</td><td>55.4%</td><td>→ <u>53.4</u>57.8%</td></tr></table>		<u>—2016H27年</u>	<u>20</u>			<u>18—H28年</u>	・ 金沢地域の年間入り込み客数	1,006万人	→ <u>1,022</u> 1,034 万人	・ 金沢市の年間延べ宿泊客数	296.6万人	→ <u>319.4</u> 308.5 万人	・ 金沢市の年間外国人延べ宿泊客数	25.6万人	→ <u>44.8</u> 39.6 万人	・ 金沢旅行全般の満足度（とても満足）	38.4%	→ <u>46.9</u> 44.5 %	・ 金沢への再来訪回数（リピート率）	55.4%	→ <u>53.4</u> 57.8 %	
	<u>—2016H27年</u>	<u>20</u>																				
		<u>18—H28年</u>																				
・ 金沢地域の年間入り込み客数	1,006万人	→ <u>1,022</u> 1,034 万人																				
・ 金沢市の年間延べ宿泊客数	296.6万人	→ <u>319.4</u> 308.5 万人																				
・ 金沢市の年間外国人延べ宿泊客数	25.6万人	→ <u>44.8</u> 39.6 万人																				
・ 金沢旅行全般の満足度（とても満足）	38.4%	→ <u>46.9</u> 44.5 %																				
・ 金沢への再来訪回数（リピート率）	55.4%	→ <u>53.4</u> 57.8 %																				

<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>(一社) 金沢市観光協会が母体となり、行政のほか、経済、観光、交通、宿泊、飲食、物産、伝統工芸、伝統文化などの多様な分野の団体・事業者が参画し、官民が密接に連携した運営を実施。</p> <p>(実施体制図)</p> 
-------------	--

2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

金沢市は、藩政時代に培われた歴史・文化を背景に、北陸地方における経済・文化等の高い拠点性を有し、観光資源も豊富であることから、当該市域を観光地域づくりのマーケティング・マネジメントの区域として設定するのが妥当である。

また、2015年3月の北陸新幹線金沢開業により、交通結節点としての機能が飛躍的に高まっていることから、北陸地方のハブとして当該区域の拠点性を一層向上させることで、周辺地域への経済波及効果が期待できる。

【観光客の実態等】

○北陸新幹線金沢開業による観光客の増加

2015年3月の北陸新幹線金沢開業を契機に、2015年の金沢地域〔金沢市、~~かほく市~~、~~白山市~~、~~旧松任市~~、~~旧美川町~~〕、野々市市、かほく市、津幡町、内灘町〕の年間入り込み客数が対前年比約20%増の1,006万人と大きく増加したほか、市内の主要観光地である兼六園（約290万人、対前年比46.4%増）、金沢城公園（約230万人、対前年比82.3%増）、金沢21世紀美術館（同年約220万人、対前年比31.9%増）においても入場者数が急増した。

2017~~2016~~年は、金沢地域の年間入り込み客数が1,022~~1,034~~万人（対前年比約13%~~減増~~）とほぼ横ばいを維持しているほか、市内延べ宿泊客数においては宿泊客数が約319~~308~~万人（対前年比約46%増）と引き続き増加しており、更に増加しているほか、主要観光地の入場者数は一部で前年割れしているものの開業前と比較して高い水準を維持しており、北陸新幹線金沢開業効果が依然として持続されていることがうかがえる。

○外国人旅行者の増加

市内の外国人延べ宿泊客数宿泊者数が近5年間で約2.94倍（2013~~H24~~年：約15~~10~~万6千8,000人→2017~~H28~~年：約4439万8千6,000人）となるなど、全国平均訪日外国人旅行者の増加を上回るペースで金沢市を訪れる外国人旅行者が増加している。

また、同年次における発地域別の外国人延べ宿泊客数宿泊者数の増加率構成比をみると、アジア約2.3倍（2013年：約10万5千人→2017年：約24万4千人）に対し欧米豪が約3.6倍（2013年：約4万2千人→2017年：約15万人）となっており、結果2017年の構成比はアジア約54%、欧米豪約33%となるなど、特にH24年はアジア65.7%、欧米豪26.5%であったものが、H28年はアジア58.4%、欧米豪32.1%となったほか、同年次比較における増加率ではアジア約3.2倍、欧米豪約4.4倍となっており、欧米豪地域からの増加が著しい。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

○金沢市の観光資源の概要

金沢市は、日本海に面し、市内を流れる犀川、浅野川の二条の清流と緑濃い周辺の山々とに囲まれた豊かな自然環境に恵まれているとともに、春の桜、夏の緑陰、秋の紅葉、冬の雪景色

など、四季折々に変化する自然を身近に感じることができるまちである。

また、藩政時代に確立された城下町のまちなみを今も色濃く残すとともに、加賀藩前田家の歴代藩主が「武」よりも「文」を奨励し、学術、文化、工芸の振興に力を注いだ歴史的背景から、金箔、加賀友禅、九谷焼、金沢漆器などの伝統工芸や、加賀宝生能、金沢素囃子、金沢芸妓による唄、踊りなどの伝統芸能のほか、豊かな地元食材、食器、作法、しつらえ、料理人の技術、料亭などが集結した固有の食文化等が市民の暮らしに息づき、ほんものの日本たる金沢の個性を形づくっている。

加えて、このような文化的秩序を重んじつつも新しいものを取り入れて時代を重ねてきた、金沢駅もてなしドーム、金沢 21 世紀美術館等に代表される、創造的で革新的な気風や刺激的でクリエイティブな雰囲気をも併せ持っていることが、まちの魅力を一層際立たせている。

まちの構造としては、金沢城公園の半径 2km 圏内に多数の観光資源や都市機能が集中しているコンパクトな構造となっているほか、一歩裏通りに入れば城下町特有の小路や用水の流れ等、歴史的風情が感じられるまちなみを楽しむことができる。

また、伝統芸能から音楽、アニメーション、スポーツまで、多種多様なイベントが市内で開催されているほか、100 を超える官民の施設・店舗等で、伝統工芸や伝統芸能、食文化等の体験プログラムがあり、国内外の旅行者が五感で金沢の魅力を堪能することができる。

○主な観光資源

(観光施設等)

- ・ 東山周辺：ひがし茶屋街（重要伝統的建造物群保存地区）、主計町茶屋街（重要伝統的建造物群保存地区）、志摩、懐華樓、お茶屋美術館、金沢文芸館、泉鏡花記念館、金沢蓄音器館、大樋美術館／大樋長左衛門窯、安江金箔工芸館、徳田秋聲記念館、寺島蔵人邸 など
- ・ 卯辰山周辺：卯辰山山麓寺院群（重要伝統的建造物群保存地区）、卯辰山公園、金沢卯辰山工芸工房 など
- ・ 兼六園周辺：兼六園、金沢城公園、金沢 21 世紀美術館、鈴木大拙館、成巽閣、石川県立美術館、加賀本多博物館、石川県立歴史博物館、石川県立伝統産業工芸館、西田家庭園「玉泉園」、金沢能楽美術館、金沢くらしの博物館、中村記念美術館、金沢ふるさと偉人館、加賀友禅会館 など
- ・ 長町周辺：長町武家屋敷跡界隈、尾山神社、鞍月用水・大野庄用水、武家屋敷跡 野村家、金沢市老舗記念館、前田土佐守家資料館、旧加賀藩士高田家跡、金沢市足軽資料館、石川四高記念文化交流館、金沢市民芸術村 など
- ・ 寺町周辺：にし茶屋街、寺町寺院群（重要伝統的建造物群保存地区）、金沢市西茶屋資料館、妙立寺、伏見寺、雨宝院、室生犀星記念館、香林寺 など
- ・ 金沢駅・近江町周辺：金沢駅もてなしドーム、近江町市場、町民文化館、尾張町老舗交流館 など
- ・ 金石・大野周辺：金沢港、金沢港いきいき魚市、大野からくり記念館、石川県銭屋五兵衛記念館・銭五の館 など
- ・ 湯涌周辺：湯涌温泉、金沢湯涌江戸村、金沢湯涌夢二館、金沢湯涌創作の森、湯涌温泉総湯「白鷺の湯」、白鷺の足湯 など
- ・ 小立野周辺：小立野寺院群、天徳院 など
- ・ 野田山周辺：前田家墓所（国史跡指定）、大乘寺、大乘寺丘陵公園 など

(イベント)

- ・年間イベント：金沢百万石まつり、いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭、金沢ジャズストリート、金沢アカペラ・タウン、金沢・浅の川園遊会、フードピア金沢、湯涌ぼんぼり祭り ほか多数
- ・夜間イベント：金沢城・兼六園ライトアップ、金沢ナイト・ミュージアム、金澤月見光路 ほか多数
- ・伝統芸能イベント：金沢おどり、金沢芸妓のほんものの芸にふれる旅（年間 25 回程度）、金沢芸妓「お稽古風景」見学会、金沢能楽会定期能（毎月 1 回） ほか多数
- ・スポーツイベント：金沢マラソン、地元プロスポーツチーム（野球、サッカー、バスケットボール）ホームゲーム ほか多数
- ・その他、40 超の市内文化施設等によるイベント等が年間を通じて多数開催

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

~~2017~~2016年 12 月時点で、本市内の宿泊施設は合計で ~~201~~155 軒、客室数 ~~9,448~~9,978 室、収容数 ~~16,602~~15,907 人となっている。

種類別でみると、施設数では民宿・ペンションの増加が著しく、結果、施設数では構成比では ~~50.738~~50.738-1%と最も多くなっているが、客室数及び収容数でみればビジネスホテルが過半数を占め、次に都市ホテルが多い最も多い。

なお、金沢市の誘致事業により、金沢駅隣接地において 2020 年 6 月に国際ブランドホテルの開業が予定されているほか、民間によるホテル開発も盛んであり、2020 年までに約 2,000 室が増える見込みとなっている。

■種類別施設数・客室数・収容数

種類	施設数				客室数				収容数			
	H27	構成比	H28	構成比	H27	構成比	H28	構成比	H27	構成比	H28	構成比
一般旅館	15	18.7%	16	8.0%	170	1.9%	185	2.0%	546	3.4%	504	3.0%
温泉旅館	12	7.7%	12	6.0%	142	1.6%	148	1.6%	698	4.4%	669	4.0%
料亭旅館	15	3.4%	14	2.9%	1,731	19.3%	1,746	19.3%	2,132	10.8%	2,115	10.8%
都市ホテル	49	39.5%	49	24.5%	6,712	79.1%	6,711	79.1%	2,991	18.8%	2,684	16.2%
ビジネスホテル	45	29.0%	49	24.4%	6,355	70.7%	6,705	71.0%	9,409	59.2%	10,907	60.3%
民宿・ペンション	58	38.1%	102	50.7%	228	2.5%	336	3.6%	799	5.0%	1,259	7.6%
みのるホテル	0	0.0%	0	0.0%	34	0.0%	34	0.0%	1,330	0.0%	1,330	0.0%
公的施設	118	100.0%	159	100.0%	8,338	100.0%	8,378	100.0%	15,324	100.0%	15,364	100.0%
合計	155	100.0%	201	100.0%	8,983	100.0%	9,448	100.0%	15,907	100.0%	16,602	100.0%

【利便性：区域までの交通、域内交通】※20182017年 10月現在

○空路（小松空港：金沢市内まで特急バスにて約 40 分）

（国内線）

- ・東京（羽田）－小松 約 1 時間（10 往復/日）
- ・東京（成田）－小松 約 1 時間 15 分（1 往復/日）
- ・札幌（新千歳）－小松 約 1 時間 30 分（1 往復/日）
- ・仙台－小松 約 1 時間（2 往復/日）
- ・福岡－小松 約 1 時間 20 分（4 往復/日）
- ・那覇－小松 約 2 時間 10 分（1 往復/日）

（国際線）

- ・ソウル（仁川）－小松 約 1 時間 45 分（3 往復/週）
- ・上海（浦東）－小松 約 2～3 時間（4 往復/週）
- ・台北（桃園）－小松 約 3 時間 30 分～4 時間（75 往復/週）
- ・その他、香港、マカオ、グアム、ハノイ、ホノルル等へ国際チャーター便が運航されている。

○鉄路

- ・東京－金沢（北陸新幹線） 約 2 時間 30 分
- ・名古屋－米原－金沢（東海道新幹線、特急しらさぎ） 約 2 時間 30 分
- ・大阪－金沢（特急サンダーバード） 約 2 時間 30 分
- ・仙台－大宮－金沢（東北新幹線、北陸新幹線） 約 3 時間 30 分

○高速バス

- ・東京－金沢 約 8 時間
- ・名古屋－金沢 約 4 時間（夜行バス除く）
- ・大阪－金沢 約 4 時間 30 分～5 時間 45 分（夜行バス除く）
- ・仙台－金沢 約 9 時間 20 分（夜行バスのみ）
- ・高山－白川郷－五箇山－金沢 約 2 時間 15 分

○車

- ・東京（練馬 IC）－金沢（金沢森本 IC） 約 5 時間 20 分
- ・名古屋（一宮 IC）－金沢（金沢西 IC） 約 2 時間 35 分
- ・大阪（吹田 IC）－金沢（金沢西 IC） 約 3 時間 20 分

○地域内交通

- ・「城下まち金沢周遊」バス（金沢駅を出発・終着地に、毎日 8:30 頃～19:00 頃まで、右回り・左回り各々 15 分間隔で、主要観光地 15 箇所程度を周遊）
- ・「兼六園シャトル」バス（金沢駅を出発・終着地に、毎日 9:30 頃～18:30 頃まで、20 分間隔で、兼六園周辺とを往復）
- ・金沢ショッピングライナー「まちバス」（金沢駅を出発・終着地に、土・日・祝日のみ 9:30 頃～20:30 頃まで、20～30 分間隔で、市内中心部とを往復）
- ・その他路線バス多数（主要バス事業者が観光客向けの 1 日フリー乗車券を発行）

- ・観光ガイドタクシー（認定乗務員約 290 人）
- ・公共レンタサイクル「まちなり」（ポート数 22 箇所）

【外国人観光客への対応】

○外国人観光案内所

金沢駅観光案内所（JNTO 認定外国人観光案内所（カテゴリー2））にて、外国語での総合的な観光案内のほか、当日宿泊予約の受付、宿泊先への手荷物配送サービスの受付、市内同行ガイド・通訳の派遣等を実施。

＜その他の JNTO 認定外国人観光案内所（[2018 年 H29-10 月末日](#)現在）＞

カテゴリー2：[24](#)箇所、カテゴリー1：2 箇所、パートナー施設：[89](#)箇所

○観光ホームページ・パンフレット・マップの多言語化

英語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語（繁体字）、中国語（簡体字）、韓国語、タイ語の 8 カ国語に対応。

○通訳ガイドの充実

2016 年 6 月に金沢市が「金沢市特例通訳案内士特区」の認定を受け、当該特例通訳案内士（[現 地域通訳案内士](#)）の養成を開始。

2017 年 4 月より、金沢市特例通訳案内士（[現 地域通訳案内士](#)）のほか、金沢地域で活動する通訳案内士（[現 全国通訳案内士](#)）や、ボランティア通訳ガイド「金沢グッドウィルガイドネットワーク（KGGN）」へ問い合わせやガイド依頼できる検索サイトの運用を開始。

その他、市内の通訳ガイド人材のスキルアップ研修等を実施している。

○「金沢市観光戦略プラン 2016」に基づく外国人観光客の受入環境整備

- ・民間の観光施設、宿泊施設、飲食店、商店街等が行う外国人旅行者の受入環境整備（食事メニュー、看板、パンフレット等の多言語化、トイレ洋式化、Wi-Fi 整備、クレジットカード決済機器の導入等）へ金沢市が補助
- ・公衆無線 LAN「KANAZAWA FREE Wi-Fi」の整備推進（[2018 年 H29-10 月末日](#)現在 [13 エリア 34 箇所](#)）
- ・商店街共同免税手続きカウンターの充実（[2018 年 H29-10 月末日](#)現在 2 箇所）
- ・外国人向けの地図や公的サイン、二次交通の案内充実
- ・文化施設における多言語対応の普及促進

○観光立国ショーケースへの選定

2016 年 2 月、観光庁より金沢市が観光立国ショーケースに認定されたことを受け、関係省庁が連携した施策の集中投入により、観光資源の磨き上げ、ストレスフリーの環境整備、海外への情報発信に取り組んでいる。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	マーケティング、商品造成、ブランディングのための基礎資料	旅行者向けのアンケート調査（石川県実施）

(別添) 様式 1

延べ宿泊者数	観光消費額の算定、経済波及効果の分析	宿泊施設への郵送によるアンケート調査
来訪者満足度	マーケティング、商品造成、ブランディングのための基礎資料	旅行者へのヒアリング調査
リピーター率	マーケティング、商品造成、ブランディングのための基礎資料	旅行者へのヒアリング調査
年間入り込み客数	観光消費額の算定、経済波及効果の分析	観光施設等へのアンケート調査 (石川県実施)
年間外国人延べ宿泊客者数	観光消費額の算定、経済波及効果の分析	宿泊施設への郵送によるアンケート調査
WEBサイトのアクセス状況	マーケティング、商品造成、ブランディングのための基礎資料	Google アナリティクスを活用して実施

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
--	-----	-----

<p>内部環境</p>	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金沢という都市ブランドの知名度の高さ ・歴史、文化、まちなみ、工芸、芸術、食など、他地域と比較し優位性のあるコンテンツが豊富 ・金沢城公園を中心に主要観光スポットがコンパクトに配置されており、歩いて周遊できる ・地域内交通において、バス路線網やレンタサイクル等多様な移動手段の選択肢がある ・金沢へのアクセスにおいて、陸路、海路、空路の交通の選択肢があり、これらの交通結節点である ・外国人対応や工芸体験等が可能な店舗が増加している ・毎週末のように、まちなかでイベントが開催されている 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期の観光客数の落ち込み ・大規模コンベンション開催時などの繁忙期に宿泊施設が不足 ・数日あれば、主要な観光地や観光施設をまわることができる ・文化施設の多さに対し、娯楽施設等が少なく、多様な世代・ニーズの受け入れ幅が狭い ・着地型旅行商品の数や販売体制が不十分 ・多言語対応が不十分 ・バリアフリー対応が不十分 ・観光客の増加に伴う観光と市民生活の調和
<p>外部環境</p>	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線金沢開業に伴う首都圏や東北からのアクセス向上 ・北陸新幹線の終着駅効果 ・訪日外国人旅行者の増加 ・インターナショナルブランドホテルの開業(2020年6月予定) ・民間によるホテル等建設投資の増加 ・ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンで「3つ星」に紹介された高山、松本(松本城)、「世界遺産」の五箇山と白川郷など、国内屈指の観光名所が近接 ・石川中央都市圏、北陸新幹線沿線都市、その他交流都市協定締結都市との連携協力体制がある ・ラグビーワールドカップ 2019 及び東京オリンピック・パラリンピック 2020 の開催に伴う文化プログラムの充実及び魅力発信 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足 ・北陸新幹線敦賀延伸に伴う終着駅効果の減少(2022年度予定) ・観光ニーズの多様化や、メディア等の多様化等による情報発信手段の変化への対応 ・受入容量以上の観光客の来訪による満足度やサービスレベルの低下 ・観光資源の大衆化に伴う金沢らしさの喪失

(2) ターゲット

<p>○国内ターゲット層 首都圏、中京圏、関西圏の三大都市圏及び、新幹線により身近となった東北地方</p>

○選定の理由

~~2017~~2016年に実施した金沢印象面接調査において、発地の別では関東地方 ~~50.846~~50.846-5%、中部地方が ~~21.225~~21.225-2%、関西地方が ~~18.415~~18.415-2%となり、当該地域で観光客全体の約 ~~9085~~9085%を占める重要市場であることから、三大都市圏をターゲットに国内誘客を推進する。

また、北陸新幹線の開業により東北地方とのアクセスが飛躍的に向上したことに加え、JRにおいても金沢－仙台間を大宮での乗り継ぎなしで結ぶ団体用直通新幹線の試験的な運行を行っていることから、新たな市場として東北地方からの誘客も推進する。

○取組方針

- ・ JR 主催の観光キャンペーンに併せた金沢の観光素材の発信、JR との共同による情報誌の発行、北陸新幹線沿線都市と連携した広域観光の推進を通して、JR 各社との連携による相乗的かつ効率的なプロモーションを展開する。
- ・ その他、旅行会社やメディア等とタイアップした観光セミナーや販促キャンペーンの実施、出向宣伝等を通して誘客を推進する。

○海外重点ターゲット層

歴史・伝統、文化の観光資源に親和性の高い欧米豪地域

○選定の理由

観光庁の「訪日外国人の消費動向—訪日外国人消費動向調査結果 (2017 年) 及び分析」によると、観光・レジャーを目的とした訪日外国人の平均泊数は 5.8 泊であるのに対し、欧米豪各国においては 10 泊以上とからの訪日外国人旅行者は 1 週間以上滞在する割合が高く、さらに 14 日以上滞在する旅行者もドイツ・フランス・オーストラリアでは約 4 割いるため、長期滞在型の旅行を好む傾向にある。

また、同調査によると、「次回日本を訪れた時にしたいこと」という問いに対し、特に「日本の歴史・伝統文化体験」と回答した割合が、アジア各国に対し欧米豪各国が高く、金沢の主要な観光資源である歴史・伝統、文化との親和性が高い。上位 3 位は欧米豪で占められていた。実際に欧米豪からの訪日外国人旅行者は、和風旅館での宿泊や茶の湯、能などの日本文化の体験に価値を感じており、金沢のまちなかを歩きながら感じる日本独特の暮らしのほか、「日本海」にも関心が高い特徴がある。

加えて、近 5 年における発地域別の外国人延べ宿泊客数の増加率をみると、アジア約 2.3 倍 (2013 年：約 10 万 5 千人→2017 年：約 24 万 4 千人) に対し欧米豪が約 3.6 倍 (2013 年：約 4 万 2 千人→2017 年：約 15 万人) となっており、結果 2017 年の構成比はアジア約 54%、欧米豪 約 33%となるなど、また、発地域別の外国人宿泊者数の構成比をみると、H24 年はアジア 65.7%、欧米豪 26.5%であったものが、H28 年はアジア 58.4%、欧米豪 32.1%となったほか、同年次比較における増加率ではアジア約 3.2 倍、欧米豪約 4.4 倍となっており、欧米豪地域からの増加が著しいことから、「ほんものの日本」を体験したい欧米豪の中間層から富裕層を中心に、重点的な誘客を進めていく。

○取組方針

- ・当面は、欧州等のアウトバウンドのトレンドリーダーであるフランスのほか、特に金沢への旅行者数の伸び率が高いイタリア、スペインを中心に、現地旅行会社と連携した現地プロモーションや、訴求力の高い映像コンテンツによるオンラインプロモーションを展開する。
- ・ほんものの日本を体感できる広域観光ルート「北陸・飛騨・信州3つ星街道」の連携のもと、ストーリー性のある魅力高い観光資源を一体的にPRすることで、訴求力を高めるとともに、広域での滞在観光を推進する。
- ・~~2016H28~~年度から新たに開始した外国人旅行者に対する金沢印象面接調査等を活用し、一層の観光資源の磨き上げを行う。

○海外ターゲット層

台湾・マレーシア・シンガポールを中心とした東・東南アジア地域

○選定の理由

~~2017H28~~年に兼六園を訪れた訪日外国人旅行者 約 37万9千人 ~~35万6,000人~~の内、約4割が台湾からの旅行者となっているほか、約7割が東・東南アジア諸国からの旅行者で占められている。

また、距離的に近い地理的優位性等から、~~2017~~~~2016~~年に実施した金沢印象面接調査において、金沢市を訪れるアジアからの旅行者の8割以上が訪日リピーターであり、継続した入り込みが見込める重要市場であることから、引き続きプロモーション活動を推進していく必要がある。

○取組方針

- ・金沢市出身で台湾の治水事業に多大な貢献をした偉人 八田與一の縁を礎として、台湾との双方向の交流事業や誘客プロモーションを推進する。
- ・アジアから訪日旅行者に人気のある広域観光ルート 昇龍道の関係自治体や民間観光関連事業者と連携し、メディアやインフルエンサーを招聘したファムトリップ等を通じて情報発信を行っていく。
- ・~~2016H28~~年度から新たに開始した外国人旅行者に対する金沢印象面接調査等を活用し、一層の観光資源の磨き上げを行う。

(3) コンセプト

①コンセプト	四季折々、ほんものの日本を五感で発見できるまち金沢 (Kanazawa: Discover Authentic Japan and Excite the Five Senses)
②コンセプトの考え方	<p>金沢は、藩政時代に確立された城下町のまちなみを今に残し、加賀藩前田家は、「武」よりも「文」を奨励し、学術、文化、工芸の振興に力を注いだ。</p> <p>金沢が今日、「歴史都市」「文化都市」「創造都市」と呼ばれる所以は、加賀藩の歴代藩主が創り上げた武家文化を連綿と受け継いできた国内でも希有な都市であることに加え、金沢駅もてなしドーム、金沢 21 世紀美術館等に代表される、創造的で革新的な気風やクリエイティブな雰囲気をも併せ持っていることである。</p> <p>北陸新幹線の金沢開業を契機に、この文化的秩序を重んじつつも新しいものを取り入れて時代を重ねてきた、金沢の「日本の由緒あるほんもの」の豊かさを、将来に向けて一層磨き高めていく。</p> <p>そうして磨かれた金沢のまちなみや建築物、工芸や芸能、地場の食材を活かした食文化としつらえ、用水のせせらぎや鼓、三味線等の音色、くらしの営み等を「五感」で感じることで、ほんものの日本を発見できるまちとして、国内外の多くの観光客を惹きつけるまちを目指す。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<p>(一社) 金沢市観光協会を構成する多様な会員団体・事業者が参画する年数回の理事会や年1回の総会のほか、行政や協会会員の中心メンバーの実務者等によるコアメンバー会議を月1回程度開催し、DMOとしての取組の方向性や具体的な方策等についての検討や情報の共有化を行っている。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p><u>2018年2月</u>H29年12月より、観光協会の公式ウェブサイトホームページ内に、協会会員等の民間団体や事業者が自ら造成した体験プラン、現地ツアー、イベント等の「コト」商品着地型旅行商品を掲載・発信するページページを新たに設け、<u>ることとしており、当該ページのページを通じて得られた</u>ログデータ等のフィードバックを通じて、サービスの維持・向上・評価を行っている<u>いく</u>。</p> <p>その他、地域主導型の「コト」着地型旅行商品づくりやマーケティング等に関する会員意見交換会やセミナーを開催し、一層幅広い団体・事業者等の参画を促しつつ、戦略等の共有化も図っていく。</p>
一元的な情報発信・プロモーション	<p>現在、金沢市観光協会の公式ウェブサイトホームページにおいて、多言語で市内の観光情報を一元的に発信しているほか、上記の通り、民間事業者等が自ら企画開発した着地型旅行「コト」商品を掲載・発信していくページを当該サイト内に<u>新たに設けていることとしている</u>。</p> <p>また、金沢市観光協会が中心となって、適宜、民間事業者等とタイアップしながら、各種データに基づく効率的かつ効果的なプロモーションを展開していく。</p>

6. KPI (実績・目標)**(1) 必須KPI**

指標項目	単位	<u>201527</u> 年	<u>201628</u> 年	<u>201729</u> 年	<u>201830</u> 年	<u>201931</u> 年	<u>202032</u> 年
●旅行消費額	億円	678 (678)	697 (-)	717 (-)	736 (-)	758 (-)	780 (-)
●延べ宿泊者数	万人	290.6 (290.6)	296 (308.5)	302 <u>(319.4)</u> =)	308 (-)	314 (-)	320 (-)
●来訪者満足度 (とても満足の割合)	%	38.4 (38.4)	41.0 (44.5)	43.5 <u>(46.9)</u> =)	46.0 (-)	48.0 (-)	50%以上 (-)
●リピーター率	%	55.4 (55.4)	56.5 (57.8)	57.5 <u>(53.4)</u> =)	58.5 (-)	59.5 (-)	60%以上 (-)

※ () 内は実績値

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

行政との連携による一体的な観光まちづくりを推進するため、2016年3月に金沢市が策定した「金沢市観光戦略プラン2016」(計画期間:2016年度~2020年度)に合わせ、2015H27年を基準年次、2020H32年を目標年次とし、同じ指標及び目標数値を採用する。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

- ・ 2015H27年を基準値とし、金沢地域の年間入り込み客数の目標値の伸び率と、想定される消費者物価指数の上昇率より設定。

●延べ宿泊者数

- ・ 2015H27年を基準値とし、金沢地域の年間入り込み客数の目標値の伸び率より設定。

●来訪者満足度

- ・ 2015H27年を基準値とし、毎年2.5%増を目指して設定。

●リピーター率

- ・ 2015H27年を基準値とし、毎年1.0%増を目指して設定。

(2) その他の目標

指標項目	単位	<u>201527</u>	<u>201628</u>	<u>201729</u>	<u>201830</u>	<u>201931</u>	<u>202032</u>
------	----	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

(別添) 様式 1

		年	年	年	年	年	年
●金沢地域の 年間入り込み客数	万人	1,006 (1,006)	1,024 (1,034)	1,042 <u>(1,022)</u> =)	1,060 (-)	1,080 (-)	1,100 (-)
●外国人 延べ宿泊客数	万人	25.6 (25.6)	28 (39.6)	31 <u>(44.8)</u> =)	34 (-)	37 (-)	40 (-)

※ () 内は実績値

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討のプロセス及び考え方

【検討の経緯】

行政との連携による一体的な観光まちづくりを推進するため、2016年3月に金沢市が策定した「金沢市観光戦略プラン2016」(計画期間:2016年度~2020年度)に合わせ、2015H27年を基準年次、2020H32年を目標年次とし、同じ指標及び目標数値を採用する。

【設定にあたっての考え方】

●金沢地域の年間入り込み客数

- ・ 2015H27年3月の北陸新幹線金沢開業により、基準年次となる 2015H27年の年間入り込み客数は、前年に比べ大幅に増加(約2割増)したところだが、一年間の中で落ち込みが目立つ冬期の底上げ等を図り、2020H32年を目標年次に約10%増を目指して設定。

●外国人延べ宿泊客数

- ・ 東日本大震災のあった 2011H23年の約6万3千~~000~~人より毎年5万人程度が増加し、基準年次となる H272015年の外国人延べ宿泊客数は、2011H23年比で約4倍に増加している。また、発地域別構成比(2015H27年)をみるとアジアが約50%、欧米豪が約35%となっている。今後、欧米豪を重点ターゲットとして誘客を進めることで 2020H32年の目標年次における倍増を目指すほか、アジアへのプロモーションも引き続き推進することで目標年次における約3割増を目指して設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
2015 平成 26 年 度 (決算)	213,262,793 193,829,948 (円)	<u>【市からの補助金】</u> 27,100,000 円 <u>【収益事業収入】</u> 176,292,557 円 <u>【会費収入】</u> 4,038,000 円 <u>【負担金収入】等</u> 5,832,236 円 【市からの補助金】 21,438,000 円 【収益事業収入】 138,911,667 円 【会費収入】 3,943,000 円 【負担金収入】等 29,537,281 円
2016 平成 27 年 度 (決算)	227,833,176 213,262,793 (円)	<u>【市からの補助金】</u> 27,380,000 円 <u>【収益事業収入】</u> 191,119,949 円 <u>【会費収入】</u> 4,210,000 円 <u>【負担金収入】等</u> 5,123,227 円 【市からの補助金】 27,100,000 円 【収益事業収入】 176,292,557 円 【会費収入】 4,038,000 円 【負担金収入】等 5,832,236 円
2017 平成 28 年 度 (決算)	203,088,957 227,833,176 (円)	<u>【市からの補助金】</u> 26,390,000 円 <u>【収益事業収入】</u> 172,361,745 円 <u>【会費収入】</u> 4,285,000 円 <u>【負担金収入】等</u> 52,212 円 【市からの補助金】 27,380,000 円 【収益事業収入】 191,119,949 円 【会費収入】 4,210,000 円 【負担金収入】等 5,123,227 円
2018 平成 29 年 度 (予算)	203,180,000 201,046,000 (円)	<u>【市からの補助金】</u> 39,170,000 36,400,000 円 <u>【収益事業収入】</u> 159,710,000 159,436,000 円 <u>【会費収入】</u> 4,200,000 4,100,000 円 <u>【負担金収入】等</u> 100,000 1,110,000 円

(別添) 様式 1

2019 平成 30 年 度 (見込み)	203,180,000 201,046,000 (円)	【市からの補助金】	39,170,000 円
		【収益事業収入】	159,710,000 円
		【会費収入】	4,200,000 円
		【負担金収入】等	100,000 円
		【市からの補助金】	36,400,000 円
		【収益事業収入】	159,436,000 円
		【会費収入】	4,100,000 円
		【負担金収入】等	1,110,000 円

(2) 支出

年度	総支出	内訳	
2015 平成 26 年 度 (決算)	207,760,536 180,685,733 (円)	【一般管理費】	13,938,036 円
		【市からの受託事業費】	167,286,538 円
		【自主事業費】	26,535,962 円
		【一般管理費】	21,598,450 円
		【市からの受託事業費】	152,618,680 円
		【自主事業費】	6,468,603 円
2016 平成 27 年 度 (決算)	220,172,599 207,760,536 (円)	【一般管理費】	11,457,707 円
		【市からの受託事業費】	179,987,672 円
		【自主事業費】	28,727,220 円
		【一般管理費】	13,938,036 円
		【市からの受託事業費】	167,286,538 円
		【自主事業費】	26,535,962 円
2017 平成 28 年 度 (決算)	202,882,180 220,172,599 (円)	【一般管理費】	12,219,369 円
		【市からの受託事業費】	11,457,707 円
		【自主事業費】	179,987,672 円
		【市からの受託事業費】	162,014,377 円
		【自主事業費】	28,727,220 円
		【自主事業費】	28,727,220 円
2018 平成 29 年 度 (予算)	203,180,000 201,046,000 (円)	【一般管理費】	8,710,000 円
		【市からの受託事業費】	8,710,000 円
		【自主事業費】	164,026,000 円
		【市からの受託事業費】	164,026,000 円
		【自主事業費】	28,437,000 円
		【自主事業費】	28,437,000 円
2019 平成 30 年 度 (見込み)	203,180,000 201,046,000 (円)	【一般管理費】	8,710,000 円
		【市からの受託事業費】	8,710,000 円
		【自主事業費】	164,026,000 円
		【市からの受託事業費】	164,026,000 円
		【自主事業費】	28,437,000 円
		【自主事業費】	28,437,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

(別添) 様式 1

- ・安定的な運営が図られるよう、金沢市の全面的なバックアップのもと金沢版DMOの取り組みを推進する。
- ・協会会員を対象として、旅行商品造成につながる意見交換会（マッチング）やマーケティング等に関するセミナーを開催するほか、自ら造成した旅行商品を観光協会公式[ウェブサイトホームページ](#)へ掲載できる仕組みを構築するなど、会員サービスの一層の充実を通じた新たな会員の獲得等による会費収入の増加を図る。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

金沢市は、一般社団法人金沢市観光協会を本市における地域DMOとして登録したいので、一般社団法人金沢市観光協会とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	池田 健
担当部署名（役職）	事務局次長
所在地	石川県金沢市木ノ新保町1-1
電話番号（直通）	076-232-5555
FAX 番号	076-232-1170
E-mail	iked@kanazawa-kankoukyouka.or.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	金沢市
担当者氏名	南 健治
担当部署名（役職）	経済局 営業戦略部 観光政策課 企画係 主査
所在地	石川県金沢市広坂1-1-1
電話番号（直通）	076-220-2194
FAX 番号	076-260-7191
E-mail	minami_ken@city.kanazawa.lg.jp

【区域】石川県金沢市
【設立時期】平成26年5月26日
【代表者】理事長 中島秀雄
【マーケティング責任者】
副理事長(兼)専務理事(兼)事務局長 八田 誠
【職員数】7名
【連携する主な事業者】
金沢商工会議所、金沢市商店街連盟、金沢市工芸協会、
(一社)金沢クラフトビジネス創造機構、(一社)石川県物産協会、
(公財)金沢芸術創造財団、(公財)金沢文化振興財団、
金沢市料理業組合、石川県社交料飲生活衛生同業組合、
金沢ホテル懇話会、金沢市旅館ホテル協同組合、湯涌温泉観光協会、
深谷温泉観光協会、(協)兼六園観光協会、
(公社)石川県バス協会、(一社)石川県タクシー協会、
西日本旅客鉄道(株)金沢支社、東日本旅客鉄道(株)北陸営業センター、
日本航空(株)北陸支店、全日本空輸(株)金沢支店、
JATA中部支部石川地区委員会、(公財)金沢コンベンションビューロー、
(公社)石川県観光連盟 など

(表:実施体制)



(表:KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

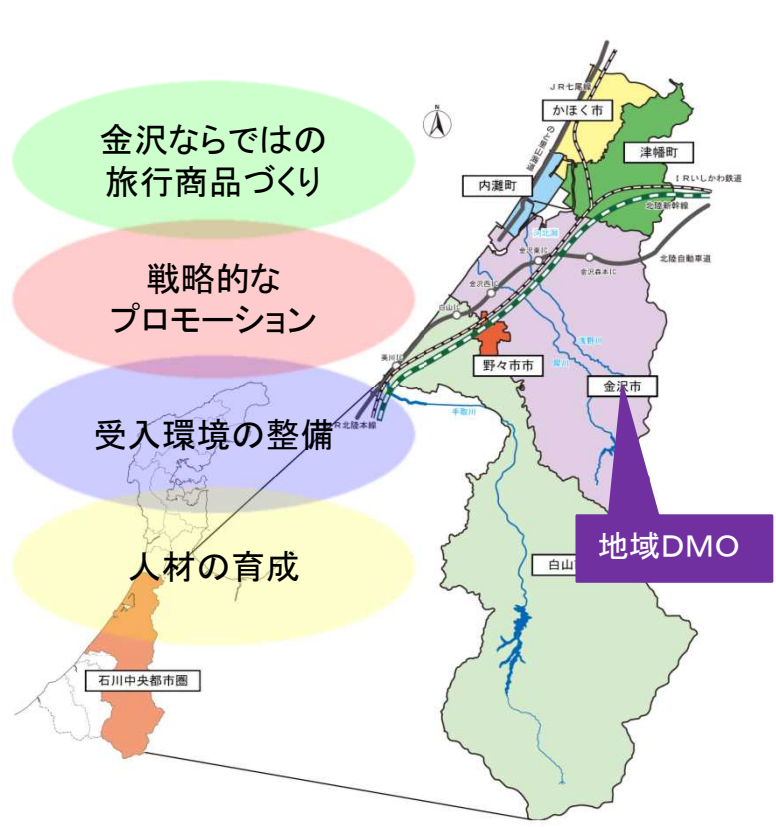
	2015年 実績	2016年 実績	2017年 実績	2018年 目標	2019年 目標	2020年 目標
旅行消費額 (億円)	678	—	—	736	758	780
延べ宿泊者 数(万人)	290.6 (25.6)	308.5 (39.6)	319.4 (44.8)	308 (34)	314 (37)	320 (40)
来訪者満足 度(%)	38.4	44.5	46.9	46.0	48.0	50以上
リピーター率 (%)	55.4	57.8	53.4	58.5	59.5	60以上

金沢ならではの旅行商品づくりに関する取組

- 藩政時代から受け継がれた歴史あるまちなみ、伝統工芸、伝統芸能、食文化等のほか、現代のアート、工芸、建築、スポーツ等の多様な地域資源を活用し、金沢ならではの魅力ある滞在型コンテンツを充実
 - ・民間主導の「コト」商品の開発促進
 - ・飲食、体験等のクーポンの企画・販売
 - ・富裕層向けプレミアムツアーのコーディネート
 - ・伝統芸能の体験プログラムの企画・販売
 - ・各種地域資源を活用したモデルコースの企画・発信
 - ・観光連携協定都市と連携した周遊ツアーの企画
 - ・スポーツツーリズムの推進 など

受入環境の整備に関する取組

- ・観光ボランティアによるガイド
- ・各種通訳ガイドの利用案内
- ・観光関連事業者等の多言語対応力の向上
- ・各種ガイドマップの発行 など



戦略的なプロモーションに関する取組

- 海外プロモーション
 - ・欧米豪の現地旅行会社等と連携した現地プロモーション
 - ・台湾での現地プロモーション、その他各種交流・誘客事業
 - ・海外の旅行会社、メディア、ブロガー等を招請したファムトリップ
 - ・多言語による観光ウェブサイトの管理運営
- 国内プロモーション
 - ・交通関連企業や旅行会社、周辺都市等と連携した誘客キャンペーン
 - ・有カメディアを活用した情報発信
 - ・モニターツアーの実施
 - ・関連企業や団体と連携した出向宣伝
 - ・旅行博への出展 など

人材の育成に関する取組

- ・観光ボランティアガイドの活動支援
- ・通訳ガイド人材のスキルアップ
- ・市民向け外国人旅行者おもてなしセミナーなど